

報道関係各位

2023年10月24日

株式会社 NearMe

【臨時国会の所信表明演説におけるライドシェアへの言及をうけて】

喫緊の交通・移動課題に対して「今」できること、“シェア乗り”構想で共鳴

日の丸交通のシェア乗りタクシー参入に向けて『NearMe』の年内導入が決定

～タクシーの輸送量増に向けて、資産の有効活用と効率化で「質」の解決を図る“シェア乗り”を推進～

独自の AI を活用しシェアによって「おトクで、スムーズ」な移動体験を提供する株式会社 NearMe（本社：東京都中央区、代表取締役社長：高原幸一郎、以下：ニアミー）は、この度、日の丸交通株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役：富田和孝、以下：日の丸交通）に、タクシーのシェアサービス『NearMe』が採用され、年内の導入が決定したことをお知らせいたします。

**NearMe の姿勢 | 『“シェア乗り”構想』～今できること、資産の有効活用と効率化で「質」の解決～**

タクシー業界は今、深刻なドライバー不足問題をかかえています。タクシードライバーの数は減少の一途を辿っておりここ 15 年では約 40%が減少※し、近年では 2019 年 3 月末時点の約 29 万人から 2023 年 3 月末時点で約 23 万人へと 4 年間で約 20%の減少※となっている中、インバウンドの急回復により需給のバランスが崩れてきている現状があります。そして 10 月 23 日、臨時国会の所信表明演説においてライドシェアの推進について言及されました。日本においてライドシェアという言葉は、配車アプリや相乗り、自家用車を用いた白タクシー等、様々な定義が混濁しています。ライドシェアには、呼んだら来る 1 台に 1 組を乗せる配車アプリによる「ライドヘイリング」と 1 つの車両を複数組で相乗りする「ライドプーリング」の 2 つの考え方があります。今日本で主な議論となっているのは、一般ドライバーが個人として自家用車に有料で利用者を乗せる「ライドヘイリング（白タクシーの解禁）」です。ニアミーは、「ライドプーリング」の考えから、現状のタクシーの乗車率約 40%※、平均乗車人数 1.3 人※という使われ方の「もったいない」に着目をしています。移動・交通の諸問題において解決すべきことは「輸送量を増やす」ことであり、これに対するアプローチとして「ライドシェア（白タクシーの解禁）」によりドライバーを増やすという「量」の解決と、今のアセットを有効活用し効率化する「質」の解決があると考えております。この「質」の解決について議論が活発になされていない現状を打破すべく、効率的で即効性のある打ち手として 車両のスペースとキャパシティをシェアする“シェア乗り”を提案、推進いたします。

ニアミーとしては、タクシーの規制緩和やライドシェアによりドライバーを増やす「量」の解決のみに留まることなく、いずれの場合も「質」の解決を掛け合わせることで、更なるタクシーの輸送量増を図ることを提案いたします。ドライバーの観点での「量」と実車率と乗車人数の発想による「質」の観点を両輪で共存させる“シェア乗り”構想を社会実装させることで、タクシー業界ひいては交通・移動領域全体の課題解決に、より一層貢献できるものと考えおります。

※出典「全国ハイヤー・タクシー連合会」調べ、TAXI Today in Japan、Taxi of Tokyo

タクシードライバー不足

高齢化で15年間減少



インバウンド急回復

コロナ前比



Source: TAMI Today in Japan, Taxi of Tokyo, ニッセイ基礎研究所 (内容を要しない外国人乗客割合) <https://www.nri-research.co.jp/report/detail?id=179272100001>



“ライドシェア”

ライドヘイリング

(呼んだら来る、1台に1組を乗せる配車アプリ)

運転する人がプロ→タクシー

運転する人が素人→白タク

※日本で言われる“ライドシェア”は白タク解禁のこと

ライドプーリング

(1つの車両を複数組で相乗り)

タクシーの使い方が「もったいない」

乗車率



乗車人数



Source: TAMI Today in Japan, Taxi of Tokyo



解決したいこと=輸送量を増やす

ドライバーを増やす
量

資産の有効活用と効率化
質

打ち手

- ・タクシー規制「緩和」
- ・ライドシェア「解禁」
=一般のドライバーが自家用車を使って有料で乗客を運ぶ など

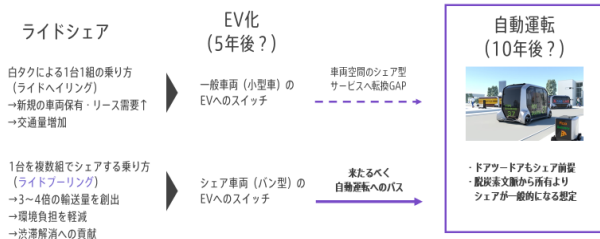
シェア乗り

移動の「もったいない」を解決し、持続可能な社会を実現

移動・交通においては、脱炭素の実現に向けて交通量と環境負担の軽減が求められています。また、近い将来自動運転が実現し、ドアツードアにおいてもシェアが前提の世界観が想定されます。このようなモビリティの将来は既存資源を有効活用するライドプーリング（質）の実装が重要です。

ニアミーは、“シェア乗り”が移動の「もったいない」を解決し、一人でも多くの人が自由に移動でき、住みたい街に住み続けられる社会の実現に貢献したいと考えております。シェアが当たり前の世界を実現することで、「住民」「交通事業者」「地域社会」が三方良しのモデルをつくり、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

将来の方向性 | 人口減や脱炭素が求められる中、モビリティの将来は既存資源を有効活用するライドプーリング（質）の実装が重要ではないか



「NearMe」について

「NearMe」は、独自の AI を活用した最適なルーティングで、出発地から目的地までの移動をドアツードアで結ぶタクシーのシェアサービスです。その中でも、空港とその周辺の都市部を結ぶ空港送迎型のアポートシャトルサービスは、2019 年 8 月のサービス開始よりこれまで延べ 50 万以上の方々にご利用いただいています。現在は、全国 15 の空港※1（成田国際・中部国際（セントレア）・関西国際・大阪国際（伊丹）・東京国際（羽田）・新千歳・福岡・北九州・那覇・旭川・帯広・青森・仙台・南紀白浜・徳島）と、空港周辺の都市部でご利用いただくことができます。対象エリアであれば、出発地となるご自宅から空港、そして空港から最終目的地まで一気通貫でつながるため、公共交通機関の乗り換えがなくなるなど、ストレスフリーな移動体験を提供することができます。また、貸切送迎サービスや、東京都と千葉県全域のゴルフ場と東京都 23 区内を結ぶゴルフシャトルなど、シチュエーションに応じて様々な移動のニーズに対応するための各種サービスを展開しています。

その他にも、スポーツ観戦における移動をスムーズにし、スタジアム周辺の渋滞による CO2 排出や排気ガスによる環境問題、交通事故など様々な地域課題解決を目指した『スタジアムシェアタクシー』※2 や、秋田県美郷町の観光二次交通の課題解消を目指した『ミズモシャトル』※2 など、地域ごとの交通課題解消を目指した様々な実証事業を行っています。

※1 2023 年 10 月 19 日時点。旭川空港、帯広空港、仙台空港は貸切送迎サービスのみ。

※2 実証事業は終了しています。

会社概要



会社名：株式会社 NearMe

所在地：東京都中央区日本橋富沢町 9-4 THE E.A.S.T.日本橋富沢町

代表者：代表取締役 高原幸一郎

設立：2017 年 7 月 18 日

URL：<https://nearme.jp/>

リアルタイムの位置情報を利用して地域活性化に貢献する“瞬間マッチング”プラットフォームになるべく、シェアリングエコノミーの MaaS 領域からスタート。2019 年 8 月より空港送迎型のアポートシャトルを運営し、独自 AI を発展させ、ルーティングの最適化技術を発展。この技術を活用し、不特定多数ではなく、少人数かつ誰が乗車したか追跡できる方法で活用していただける街中相乗りサービスなどを展開しています。なお、ニアミーは、2023 年 4 月、経済産業省が行政との連携実績のある企業を中心に事例を紹介する「行政との連携実績のあるスタートアップ 100 選」に掲載、週刊東洋経済（発行：東洋経済新報社）が毎年行っている企画『「すごいベンチャー100」2023 年最新版』に選出されました。